

舞台にかける思い

「走れ！夢の新幹線〜キクとシンジの物語〜」

「新幹線の生みの親」と呼ばれた十河信二は、どんな信念を持って人生を歩んだのか。妻・キクとの夫婦愛も含めて描いたミュージカルに挑む、市民キャストやスタッフたちの思いをお伝えします。



客席の一番後ろまで

2月4日、日曜日の午後。小松公民館に足を踏み入れると、2階の大ホールから大きな声が響いてきました。そと中をのぞいてみると、ミュージカルの舞台に向けた稽古の真っ最中でした。

3月25日の本番まで、残り2カ月弱。集まった出演者たちは、集中して稽古に取り組んでいます。役になりきり、どういう気持ちでせりふを言うか。どのように表現したら、客席の一番後ろまで伝えられるか。坊っちゃん劇場のスタッフが指導する中、一つ一つの場面を丁寧に、熱意を持って作り上げていきます。

感動の舞台から2年半

平成27年8月、当市で初めての市民ミュージカル「走れ！夢の新幹線〜キクとシンジの物語〜」が上演されました。市民キャストの皆さんが坊っちゃん劇場スタッフと一緒に心



を込めて作り上げた舞台は、観客に大きな感動を与えてくれました。あれから約2年半が経った今、「鉄道歴史パーク in SAIJO」の開館10周年に合わせて、この物語が再演されることになりました。

少しずつ浸透する演劇文化

このまちに演劇文化が根付き、広まっていくことを目指して、平成28年10月から「西条市坊っちゃん劇場アカデミー」がスタートしました。受講生たちは半年間にわたって定期的な練習を重ね、翌年3月には発表公演ミュージカル「ナザー」大地から来た少年」が上演されました。

同アカデミーは、昨年7月から10月にかけても開講されました。その受講生に加え、10月末に実施したオーディションを経て、今回の舞台への出演者が決定。小学生や60・70歳代の方など、年齢も職業もさまざまな53人の市民キャストが一緒になって物語を作っています。



演技などを学ぶアカデミー



オーディションで出演者決定



島秀雄役ほか
岩本 八大さん

以前、お芝居をしていたことがあります。お芝居は大人でも子どもでも、コミュニケーションのやりとりです。今のコミュニケーション不足の世の中では絶対に役立つと思います。もしかしたら子どものいじめもなくなるかもしれない。そういう意味では、演劇・芝居の文化が根付いてほしいと思います。



十河信二(老年期)役
村上宗隆さん

稽古では、演出の方たちから細かい部分までアドバイスをもらえます。「昨日よりも今日の方が良いものになった」と思う瞬間があり、やりがいを感じます。十河信二はものすごい人。西条の教育に与えた影響も大きい。「正直な人間を作る教育」というのが信念で、それが今も生きています。



孫(長女)役ほか
寺田天音さん

劇が大好きなので参加しました。ダンスで息を合わせるのは難しいけど、みんなで協力して作るところが楽しいです。最初と最後の歌と踊りを見てほしいです。



孝太(少年)役ほか
安藤 春香さん

前回の公演を見て、やってみたいと思いました。役の気持ちを考えてせりふを言うのが好きです。キクと信二が出会う場面は、歌がきれいでいいと思います。



由子(少女期)役ほか
堀波瑠奈さん

他学年や違う学校の人とも仲良くなれるのが良いです。新しい友達や先生と、積極的にいっぱい話します。みんなが楽しくて笑顔になると、自分も楽しいです。

出演者の声



結末の後に感じるもの

休憩時間にはワイワイと楽しそうにはしゃぐ子どもたちも、稽古が再開されると真剣な表情に戻り、ピリッとした空気に包まれます。熱のこもった稽古は、時折ユーモアを交えながら楽しく進んでいきます。演出家による熱い演技指導に耳を傾ける子どもたち。ダンスや歌の練習に一生懸命ついていく出演者。大人数で歌いながら踊る稽古では、みんなの心を合わせて本番を成功させたいという気持ちが伝わってきます。

物語が結末を迎え、幕が下りた時に、出演者たちはいったいどのような思いに包まれるのか。客席で舞台を見届けた皆さんは、どのようなことを感じるのか。感動を伝えるために、熱い思いで取り組んでいる市民キャストやスタッフたちによるこの舞台を、あなたもぜひ体感してみてください。

公演情報

鉄道歴史パークin SAIJO開館10周年記念関連事業

走れ！夢の新幹線～キクとシンジの物語～

日時 3月25日(日)

1回目 11時開演
(10時30分開場)

2回目 15時開演
(14時30分開場)

場所 総合文化会館大ホール

入場料 500円(当日700円) ※全席自由

※完売の場合は当日券なし。

※3歳以下は入場不可。託児希望者は3月16日(金)までに総合文化会館へお申し込みください。

前売り開始 3月1日(木)～

チケット販売所 市庁舎新館4階社会教育課、市教育委員会西部分室(東予総合支所内)、丹原・小松総合支所総務課、総合・丹原文化会館、坊っちゃん劇場(東温市見奈良)

問合せ 総合文化会館 Tel.0897-53-5500

主催：西条市、西条市教育委員会 共催：西条市総合文化会館、坊っちゃん劇場



写真は前回公演

十河信二ってどんな人？

明治17(1884)年に現在の新居浜市中萩町に生まれた十河信二は、明治35(1902)年に旧制西条中学校(現西条高等学校)を卒業。大学卒業後に鉄道院に入り、退官後は満鉄理事などを務めました。昭和20(1945)年には第2代旧西条市長に就任し、教育と食料増産に尽力しました。昭和30(1955)年、71歳で第4代国鉄総裁に就任すると、強い信念と卓越した手腕で東海道新幹線計画を実現し「新幹線の生みの親」と称されています。座右の銘「有法子」(諦めるのはまだ早い。まだ方法はあり、努力できるという意)の精神で数々の難局を切り開き、激動の時代を生き抜いた郷土の偉人です。西条市の名誉市民でもあります。



十河信二



十河信二記念館

坊っちゃん劇場スタッフに聴く①

子どもたちが輝く姿を見てほしい

前回の公演と比べて、ドラマをより深くしようとしています。軸となる台本は残っていますが、十河信二という人が、温かみや人間味がある人だったというドラマにしたい。若いときのキクとのシーンに歌を入れるなど、前回からパワーアップしています。

子どもたちがキラキラしていく、練習を通じて子どもたちが元気になっていく。もちろんストーリーでも見所は作りたいが、それよりも子どもたちが自分を表現する場としてここを選び、はつらつとしているところが作れたらいいなと思います。

市民ミュージカルの良さはそこだと思います。演出が偉そうに「この作品はこうだ」と言うのではなく、子どもも大人もいきいきとやっている姿が絶対だと思います。「みんないきいきし

てるな。元気をもらったな。明日からがんばろう」ってなれたら最高ですよね。その中で、十河さんという方がいて、西条にゆかりがあり、新幹線を作る原動力になったんだってところにいけたら正解なんじゃないかと。

2年前の公演やアカデミーもあり、みんなのレベルが飛躍的に上がっています。踊りの部分などで新しい挑戦もあり「よし、やってやろう」という機運が高まっています。お客さんに何かを届けようという意識が少しずつ上がってきていると思います。

4カ月の稽古の中身はお見せできませんが、その過程を想像し得るだけのものが絶対できるので、彼らのがんばりをぜひ見に来てほしいです。普段と違う彼らが見えるはずだから、それを見に来てもらえたらと思います。



演出

中村 茂昭さん

東温市出身。劇団四季で「ライオンキング」などに出演。大阪芸術大学大学院で助手を務めた後、愛媛の舞台芸術発展のため、舞台俳優やワークショップ講師として活動中。

坊っちゃん劇場スタッフに聴く②

ミュージカルをより身近な存在に

演出も振付も変わり、新しい歌も2曲ほどあり、前回のペースから一つ膨らませた舞台ができるんじゃないかと思っています。

主役の信二やキクは、3世代に分けて別の人が演じます。一つの役の成長過程をいろんな人が演じることで、お客さんにどう見せられるかというのがキーポイントになります。

市民ミュージカルは、プロの舞台とは違う楽しみ方があります。市民の方、つまりお客さんに近い立場の方が舞台に立ちます。ミュージカルというと、どうしても「敷居が高い」とか「観るもの」だとか思っている方も多いと思いますが、これを機会に「ミュージカルってもっと身近なものなんだ」「私にも舞台に立てるチャンスがあるんじゃないか」と興味を持ってもらえ

るのではないのでしょうか。

お芝居は「せりふ」で表現します。ミュージカルは、それに「歌」と「ダンス」という体の表現が加わります。子どもだって音楽を流すと即興で踊るじゃないですか。お芝居に比べて、歌とダンスはより身近な存在です。ミュージカルはこの三つがあるからすごく大変で、なかなか遠い存在に感じる人もいますが、この舞台を見て興味を持つ人が増え、西条の芸術文化が上がってくれるといいなと思います。

お客さんと一緒にみんなで楽しめる舞台を作っているの、これを見て「十河信二はこういう人なんだ」「舞台ってこういうものなんだ」と感じてもらい、見に来た方が「将来役者になりたい」といった夢を持つような、そんな舞台になればと思います。



振付・特別出演

村中 弘和さん

東京都出身。東宝・松竹などで活躍後、劇団四季で9本の作品に出演。坊っちゃん劇場では「鶴姫伝説」「お遍路さんどうぞ」に出演。現在はアウトリーチ事業部で活動中。